

北海道支部2017年夏季研究発表会（旭川大会）報告

2017年夏季研究発表会実行委員長

梅田 哲（旭川工業高等専門学校）

2017年の北海道支部夏季研究発表会は、7月22日（土）、旭川工業高等専門学校において開催されました。参加者は170名（一般会員76名、一般非会員4名、学生会員44名、学生非会員46名）の参加者があり、90件の一般講演発表と2件の特別講演が行われました。

一般講演90件は5会場に分かれて行われ、各会場とも活発な質疑応答が行われました。一般講演終了後に、北海道支部総会が開催され、平成28年度の支部事業報告および決算、平成29年度の支部事業計画および予算に関して及川英秋支部長が説明されました。

特別講演は、旭川医科大学教授の秋田谷龍男先生と日本化学会筆頭副会長の谷口功先生をお迎えして下記の演題でご講演をいただきました。

1. 「長鎖DNAの折り畳み その物理化学と生命科学・医学への展開」

秋田谷 龍男先生（旭川医科大学医学部 化学 教授）

2. 「機能電極を用いた生物電気化学の展開」

谷口 功先生（日本化学会 筆頭副会長/(独)国立高等専門学校機構 理事長）

秋田谷先生は、DNA と短鎖多価カチオンや長鎖多価カチオンとの相互作用を解析し、DNA の折り畳みの分子機構を明らかにした成果や、DNA 鎖との相互作用、DNA 鎖の高次構造変化を誘起する可能性、高次構造の性質、溶液環境の電気化学的性質との関係を解析した知見をご講演頂きました。

谷口先生は、人の行なっていないことを行うという研究者としての最も基本的かつ大切な視点をご自身の豊富な研究活動を例にしてお示し頂き、これからの日本を担う若手研究者に向けての熱いメッセージを含めてご講演頂きました。

研究発表会終了後、市内の大雪地ビール館に会場を移し、特別講演の両先生を交えて45名が参加して懇親会が行われました。久しぶりに会われる方も多く、会員相互の親睦を大いに深める会となりました。

おわりに、夏季研究発表会の準備、実施にあたり多大なるご協力を頂きました北海道支部役員の皆様、旭川工業高等専門学校実行委員の皆様とお手伝いいただいた学生の皆さん、そしていろいろとお世話いただいた北海道支部事務局植木さんをはじめ関係者各位に厚くお礼申し上げます。また、会場の施設、設備等で会員の皆様にご不便をおかけしたことがありましたら、この場をお借りしてお詫び申し上げます。